

技能・形態・時間	語彙 個人→グループ 4分
この帯のねらい	お題の1語(例: school)から連想する英単語を、1分間で放射状に書き出す。グループで見せ合い、だれとも被らなかった語は2ポイント——「みんなが書かない語」を狙ううちに、語彙の引き出しが深くなる帯。

やり方 毎回この流れ(先生の英語の合図で始まる)

1

Center word is One minute, write as many words as you can!

お題語を中心に書き、連想する英単語を線でつないで1分間書き出す

2

Stop! Count your words.

書けた語数を数える(まず量)

3

Share in your group. Same word? Cross it out... no, circle it!

グループで順に発表。被った語は1pt、だれとも被らなかった語は2pt

4

Total your points. Champion, raise your hand!

合計ポイントを記録。今日のチャンピオンを拍手で確認

ルール

- ・日本語・固有名詞はノーカウント(Tokyo はOK、友だちの名前はNG)
- ・つづりが少々あやしくても、グループが読めればOK
- ・「被らない語」を狙う＝教科書の隅の語・先週習った語を思い出すチャンス

きろく やるたびに記録しよう(のびていく自分が見える)

回	日付	語数／ポイント	ひとこと(できたこと・次の目標)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			

☆レベルアップ！ お題を単元テーマとリンクさせると教科書の予習・復習になる(食べ物の単元: food／環境の単元: nature)。上級編は「動詞しばり」「2語以上のかたまり(get up など)は3pt」。学期に1回、最初のマップと同じお題でやると語彙の成長が目で見える。

先生へ(この帯活動の運用)

語彙想起(retrieval)の帯。単語テストが「覚えたかの確認」なのに対し、これは「取り出す練習」——思い出そうとする行為そのものが記憶を強くする。

被り1pt・単独2ptのポイント設計で、易しい語だけ書く生徒が自然と「深い語」を探し始める。発表は1人ずつ順番に(全員が声を出す)。

